

世の中不景気風一色で企業ではリストラが流行り失業率も過去最悪、学校を卒業しても仕事がなく就職浪人も大勢います。

こんな夢のないサラリーマン社会を子どもたちもしっかり見ているようで、なりたい職業のNO1に「大工さん」が選ばれました。2位が博士3位が食べ物屋そして野球、サッカー選手と続きます。やはり他の人にはない能力を身につけたいようです。ちなみに女子の1位は食べ物屋さん、2位は看護婦さん3位が獣医師4位が花屋5位が保母さんだそうです。

< 第 4 7 回 ほほえみの会 >

初めての方を含め12人が参加しました。

最近入院した方は、小学3年生の子が発熱が続き連休明けに近くの医者に見せたところ、すぐに血液検査をして病気を見つけてくれたということです。

一人っ子でもあり母親は大変なショックを受けている様子ですが、その医師はこども病院にいたということで、病気が早くわかって良かったですね。

4月末に退院した方は、小学校の入学を迎えたが学校での対応をどうしたらいいかわからないとのことでした。

学校の先生方の病気に対する理解不足がだいぶあるようです。

これに対し会員からは

- ・病気のことは担任だけでなく保健の先生にも話しておいた方がいい。先生も身の回りに同じ病気の子がいたり前例があったりすれば理解がある。保健の先生は多くの生徒を見ているので病気の子も知っているのではないか。
- ・保健の先生には会に来て病気の勉強をしてもらいたい。
- ・校長も病気の知識がなく受け入れを怖がっているケースもある。

・友達の母親も遊びに行くといやな顔をする。その母親はどうして良いかわからないし、何かあったら心配という。

などの声が出ました。

今までは残念ながら、このような病気の子ども達が社会復帰するケースは少なく、一般への理解も少なかったと思います。

しかし病気が治る時代になった今、学校にしても、近所にしても病名に対する古い大人の知識、先入観、絶望感との戦いをしていかなければいけないようです。

「のぞみの会」には“フェロートゥモロー”という病気を克服した人達の会もあるということです。

6月は総会です。今年は患者兄弟にも参加してもらい、兄弟姉妹の病気について先生から直接説明をしてもらう予定です。子供達にはボランティアの方をお願いしてゲームなどもする予定です。また病気を克服し現在高校生になっている人の体験談も予定しています。総会案内を同封します。是非ご出席下さい。

また、アンケートのはがきをまだ出していない方はご返送下さい。

毎日新聞社からの補助金で「ほほえみの会」の“ホームページ”を開設しようと今準備を進めています。会の紹介や過去の会報をまとめて掲載する予定です。体験談や意見も載せていきますので寄稿をお願いします。

会員の皆さんに協力を頂いた臍帯血移植を取り上げたドキュメンタリーがよいよ5月23日(日)夜12時から放送されます。番組名は「テレメンタリー」静岡朝日テレビ制作で全国放送されますが放送時間は地域によって変わります。

是非ご覧下さい。

次回は 6月13日(日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一